

子どもの意見を反映した事業展開

取組の背景・目的

児童館事業を実施していく際に、子ども達の意見、自発的な取り組みを盛り込んでいくことは、子どもたちの活動を活性化させるため、非常に有効である。子どもたちは、受け身の関わりではなく自己実現を目的に、様々な経験と達成感を育むため、これまで定期的に子ども会議を開催してきた。日頃、子どもたちが感じている様々な意見を聞き、それを目に見える形で反映している。

取組の概要

○「子ども会議」

【対象】

小学生以上

【実施日・開催時間】

第1回 令和7年5月21日(水) 午後2時30分から3時30分まで

第2回 令和7年10月22日(水) 午後2時30分から3時30分まで

【実地場所】

地下ホール

【内容】

子ども達と、目黒区子ども条例を学びながら、児童館で『やってみたいこと』『できたらいいな』と思うことなど意見を出し合い、児童館が子どもたちにとって楽しく過ごせる居場所になるよう交流した。

○「くまごろう Box(意見箱)の設置」

【対象】

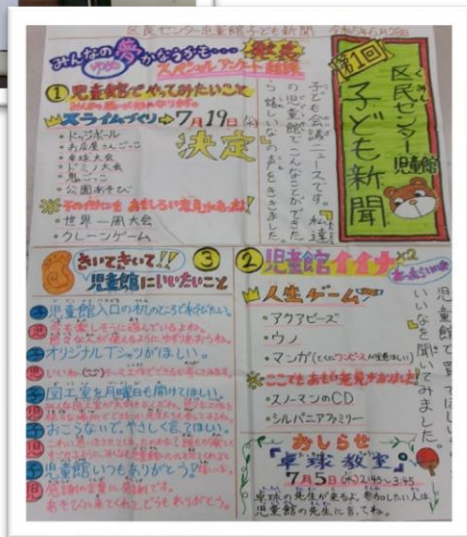
児童館を利用する全ての方

【実地場所】

玄関に常設

【内容】

記入用紙(名前、内容、記入日を記載)と「くまごろう Box」を設置し、いつでも意見が投函できるようにしている。結果については、「子ども新聞」や「意見統計」「子ども会議」で子どもたちに発信、周知、意見交流を行い、事業運営に反映している。



○子どもたちが希望する「玩具や図書の購入」、「ミニイベント」の開催

【内容】

子ども達の意見から、玩具や図書を購入し、各部屋に配置したり、ミニイベントを開催し、子どもたちにとって児童館が「意見を発信し、自己実現できる居場所」になるよう努めたりしている。令和7年度では、みんな大好き「スライム作り」、図工室で作った木工作を使って「木ゴマ大会」、練習してきたダンスやけん玉などを披露する「ミニ発表会」を開催した。

ミニイベント紹介



工夫点・留意点

『児童館は、子どもたちの意見が反映され、自己実現が可能な場所であることを知る機会とする』『普段自分が思っていることをみんなの前で発表する、また、友達の意見を聞いて共同、協力し、自分の意見も含め他者と調整しながら実現していく』ことを目指している。

- ・いかに達成できる、現実味のある意見を聞きだすか。
- ・子ども達が本当に望んでいることを聞き出せるか。
- ・児童館には様々な利用者があるため、個人の意見だけでなく、他者の意見も尊重し、一緒に楽しんだり、ともに協力したりできる事業にしていけるか。

取組の効果

子ども達の意見を事業として形にしていくことで、参加児童が積極的に関わってくれる。事業当日だけでなく、それに向けた取り組みの準備があれば、日常から活発に活動している様子が見られる。活動をきっかけに、友達関係の輪が広がっていく。

その他、活動意見に限らず、様々な意見が投函されることもあり、子ども達の心境、様子や状況をくみ取ることに活用もしている。

課題・今後の展開

子ども達の意見を広く集めるために「子ども会議」の中で「くまごろう Box」を設置することが、子どもたちの発信から決定したが、設置してから2年が経過し、くまごろう Box の活用が少し形骸化しつつある。今後、この課題をどのように改善していくか職員間で検討が必要である。